

第10回国際エイズ会議へのお誘い

池上 千寿子

第10回国際エイズ会議／国際STD会議
コミュニティリエゾン部会長

今年の夏、アジアで初めての「国際エイズ会議」が開かれます。8月7日から12日まで、横浜市のパシフィコ横浜を会場に、世界中からたくさんのエイズ関係者(研究者、医療従事者、教育者、民間団体で活動する人など1万人の予定)が集まります。

本会議のテーマは「地球規模でエイズに挑む——未来のために力をあわせて」です。

WHOの予測によると、HIV感染者は今後ますますアジアで増えると予想されています。現在の推定感染者は1400万人ですが、2000年には3000万～4000万人になるとみこまれます。その新たな感染者の多くがアジア人であり、しかも女性の感染および母親から子供への感染がいつそう深刻になるといわれています。

HIVはおもに性的に人から人へと感染していきますから、わずかの間に地球のすみずみをおおいます。地球上でHIVと無縁な社会などありません。また一地域あるいは社会が個別に対応すれば済むという問題でもありません。まさに、アジア地域そして地球全体でどうとりくむかが問われています。

「国際エイズ会議」は1985年にアメリカのアトランタで第1回が開催されて以来、毎年開かれてきましたが、これまでずっと欧米の地で行なわれ、アジアの人々の参加はきわめて少ないものでした。今回初めてアジアでしかも日本での会議なので、ぜひアジアの、日本の人々に多く参加してほしいと願っています。

この会議にはいろいろな側面があります。一つは科学的イベント。エイズ、STDに関わる研究者

たちにより最新情報が発表されます。

二つ目は、エイズの予防教育、カウンセリング、ケア、サポートなど、医療以外のあらゆる点にスポットをあてるものです。

残念ながらHIVにはいまだに根治法がありません。HIVは長く上手につきあっていくウイルスになりつつあります。だからこそ、予防やケア、差別とのたたかいなどがきわめて重要になります。その分野で活動している人たちが経験をわかちあい、ネットワークをつくり、知恵を出しあいます。

三つ目に、性産業と感染、母子感染、女性感染者へのサポート、在宅ケア、家族計画とHIV予防における女性の自己決定権など、女性に関するテーマが多くとりあげられる予定です。

感染症は、最終的に貧しく立場の弱い人々にしわよせがいきます。また性感染においては女性より男性よりも弱い立場にあります(感染に気づきにくい、感染しやすい、予防のイニシアチブがとれないなど)。いいかえると、女性たちが性の健康をしっかりと守れるようにならないかぎり、地球規模でエイズに挑むことはむずかしいのです。助産婦の皆さん、女性の一人として、また女性の生殖にたずさわる専門職として、ぜひ参加してください。

登録料8万円! そんな、高すぎる! と言わないでください。今回は横浜でやるということで、初めて日本語の通訳がつきます。こんなチャンスはめったにやってきません。少しでも関心のある方は8月7日から12日のスケジュールを今からあけておいてください。